



Media Center News

No.134 2016年9月2日 発行

充実した夏休みが過ごせましたか？新学期が始まり、メディアセンターにも生徒のみなさんの活気が戻ってきました。

9月は2年ファームワーク、6年修養会に始まり、合唱コンに見学旅行と行事で慌ただしいですが、メディアセンターで過ごす時間もぜひ作ってください*^{*}



もうすぐ合唱コン♪(1~4年)

今は読書よりも合唱！という方も、合唱がテーマの小説ならどうでしょうか。

『羊と鋼の森』で本屋大賞を受賞した宮下奈都さんの『よろこびの歌』(913.6/M)がとてもおすすめです。

映画化された、中田永一

『くちびるに歌を』(913.6/N)もありますよ。



もうすぐ見学旅行○(5年)

「見学旅行の手引き」に載っている参考図書を、「京都・奈良の本」コーナーに展示しています。

そのほかにも、仏像や古墳などについて気軽に学べる本もあわせて展示しています。



夏休みのメディアセンター

今年の夏休みは13日間開館し、利用者は延べ367人でした(ただし、来館者受付簿に記入していない人も結構いるので、実際はこれより多いはずです)。

学年別の内訳は以下のとおり。暑い中来てくれた方、ありがとうございます。

1年	2年	3年	4年	5年	6年
155人	44人	49人	22人	57人	40人



○「今月のテーマ」から○

言葉

- 金田一秀穂『人間には使えない蟹語辞典』ポプラ社
- 吉田篤弘『うかんむりのこども』新潮社
- おかべたかし『目でみることば』東京書籍

How to ○○

- 松橋利光『その道のプロに聞く生きものの持ちかた』大和書房
- キャス・キッドソン&スー・チドラー『キャス・キッドソンのつくり方』パイインターナショナル
- 蒔田直子『大学生活の迷い方：女子寮ドタバタ日記』岩波書店

今月の先生コラム

以前、私が通っていた高校に、白歩く辞書と呼ばれていた国語の先生がいらっしゃいました。一つ一つの漢字の成り立ちから、小説やその作家の背景まで、何を聞いてもその場で答えて下さる先生でした。皆、その先生をとても慕って尊敬して、ましたし、私もその一人でした。

今、その先生のことを思い返すと、先生の素晴らしいところは「辞書」的な、つまり断片的な知識だけでなく、知識と知識をつなぐ「物語」を、私たちに教えて下さったところにあるのだと感じています。その「物語」こそ、まさに本と本を繋いだ人の伴得びるものなのかなとも感じています。

なにが面白いことに出会った時、ついでに便利は辞書やネットを使って、ならぬと調べると満足してしまったりしますが、そのように簡単に手に入る知識は、また簡単に忘れてしまったり、私自身痛感しています。時間をかけて本を読むと、逆に今からないことが増えて、いちいち探すこともありますが、その簡単には手に入らない知識が自分の身におちて得られたら、ずいっと記憶に残ります。同時に、本の世界の中では、いろいろな自分なれませんが、冒険家にもなれず、ヒーローにも悪役にもなれず、追究して縦に深めていく知識と、世界を横に抜けていく知識と、沢山知識の果のように張り巡らせていく、私の出会った国語の先生は、それと身を以て教えて下さったのだと思います。私も、ついでに「歩く辞書」になりたいたいと思っ、今日も本を読みます。

社会科

S.K.



不明本 43冊！！



7月に、蔵書点検(MCにある本を、1冊1冊チェックする作業)を行いました。その結果、この1年で新たに行方不明になった本は43冊です。データ上は本があるはずなのに、実際には棚にないとなるととても困ります。

ロッカーや机の中、部室などでMCの本を見かけたら持ってきてください。本を持ち出すときには、貸出手続きを忘れずにしてください。

今月のコラムは、毎月交代で新任の先生に書いていただいています。



史料室から

今月も「恵泉の山家」シリーズで、山家で使用していた愛国防空カバーをご紹介します。山家のあった御殿場市も1945年に空襲を受けており、戦時中、空襲に備えて電気の光が外に漏れないように使われていたものです。

また、現在展示中の木製の大きな看板「恵泉の山家」の字が誰によるものか不明だったのですが、^{すえみつよしお}末光績の筆跡にほぼ間違いなさだろう、と愛媛県歴史文化博物館の学芸員・安永さんが調べてくださいました。末光は英語と生物の教員で、学園を支えた重要な人物です。

9月10日から約1年間、愛媛県西予市にある宇和先哲記念館で末光績の企画展が行われ、史料室からも数点資料の貸出をしています。その中に末光の手掘りによる信和会の鍵も入っています。

企画展のチラシは史料室前の丸テーブルに置きますので、興味のある方はお持ちください。